
アテす

ノ

大里知子

サイ

テガミ

大里知子

アテナノナイテガミ

大里知子（おおさと・ともこ）

1941年11月21日 中華民国山東省芝罘市虹口路
（現在の中華人民共和国煙台
市）で出生。

1945年8月23日 終戦により引揚げの途につく。

1946年1月1日 父の郷里秋田県花輪町に帰着。

1948年ごろより 独学で文字の判読を学ぶ。

1964年3月13日 タイプを購入、初めて自分の
手で文章を表現。コミュニケ
ーションの手段を持つ。

アテナノナイテガミ © 1971

定価 580円

1971年10月31日 初版発行

著 者 大里知子

発行者 斎藤千代

発行所 株式会社 バンク・オブ・クリエイティビティ
東京都新宿区花園町3 電話 (03) 354-3941 振替 東京 39331
印刷・厚徳社 製本・常川製本

落丁・乱丁本は、お取りかえいたします

ヤマノ ツチハ

カタイデスカ?

ノハラハ?

デコボコミチハ?

スナハマハ?

マダ イチドモ

アルイタコトガ ナイノデス

タツタコトモ アリマセン

デスカラ

アナタニ

オキキシタイト オモイマス

オシエテ クダサイ

ツチノ カンジヲ



ウレシイ コト ノ アト ニ
カナシミ ヲ
タノシイ コト ノ アト ニ
サミシサ ヲ
ニギヤカ ニ サワイダ アト ニ
ムナシサ ダケ ヲ カンジマス
コンナ コト ヲ オモウノ ハ ワタクシ ダケ
ナノデショウカ



勇気の書として

渡 部 誠 一 郎

(秋田魁新報社・社会部長)

絶え間なく襲う「アテトーゼ様運動」と戦いながら、カナ文字タイプで一字、また一字……。あるときは右手の中指で、あるときはくすり指で。おりにふれてつづつたという十万字以上の原稿を読み終えたとき、私は知子さんの三年にわたる労苦をしのび、目がしらが熱くなるのを覚えた。

障害度二級の彼女は、義務教育とは無縁だったし、家庭教師についたわけでもない。すべては家庭や周囲の暖かい愛情と理解の中で文字どおり血のにじむ努力と根性によって、珠玉のエッセイ集を結晶させたのである。

「文字を覚えるべきときに教えてもらったので、より早く覚えられたものと思う」と彼女は

書いている。これは周囲への感謝のことばであると同時に、障害者教育の急務であることを衝いた尊い証言であろう。

知子さんの筆は軽妙で、エスプリがきいていて、さわやか。人生や社会に対する鋭く、確かな見方、考え方が、読む者の心をとらえて離さない。また、いじらしい娘心、障害者としての深い苦悩と、まだるっこい政治への激しい怒りのことばも胸を打つ。私の目をうるませたのは、著者のきらいな、同情の涙ではない。それはきびしい試練を乗り越え、あくまで明るく、正しく、女らしく生きようとするひたむきな姿と、たくましい行動力に打たれた感動の涙である。もっとも、茶目ツ気の多い知子さんの筆にかかれば、オニの目に涙。とやられるかも……。

もし彼女が健康体だったら、どんなにすばらしい才能を発揮され、存分に活躍されていたことだろうか。ひよっとしたら、新聞記者になりたかったという知子さんと、いまごろ机を並べていたかもわからない。それだけに治療法がいまだに確立されていない脳性小児マヒがこのうえもなく憎い。同時に、生後四カ月で発病した愛娘を、これまでに育てられたご両親と三人のご兄弟のご労苦に対し、深い敬意を表さずにはいられない。

脳性小児マヒは手足やことばが不自由なるがゆえに、その心まで正常でないと早合点するむ

きが多い。だが、この一書は世間のそうした誤解や認識不足を一掃すると共に、同じ病いに悩む人びとに勇気と力を与えずにはおくまい。なせば成る、と教えた光りと希望の金字塔である。また障害者を施設に收容しさえすればコト足れりとするわが国の重症・重度障害対策に、きびしい反省を迫った。告発の記録、とも言えよう。ぜひ一読をお勧めしたいゆえんである。

仕事を通じて知子さんと知り合ってからもう三年近くたつ。いただいた手紙も何十通になろうか。昨年春、私が、あゆみの箱、運動に足を突っこんでからは「軽くて、どっさりはいるといいですね」と、いつも励ましの手紙や電話をくださる。私は、よき妹、を得たことを無上の喜びとし、このことを生涯の誇りとしたい。

目次

序

勇気の手紙として.....	渡部誠一郎 3
---------------	---------

はじめに

土の感じ.....	1
-----------	---

うれしいことのあとに.....	2
-----------------	---

カナタイプとともに

記念日.....	19
----------	----

手紙.....	24
---------	----

投稿.....27

和文タイプの魅力.....32

現在に至るまで

母に背負われて.....34

赤いポツケリ.....43

甘え.....45

私という人間

名まえ.....48

アイスクリームみたい.....51

私の一日.....53

ウサギのように白い.....57

洋服.....59

きびしさ	60
割り切ること	62
指輪	63
本箱	65
シュウクリーム	67
喫茶店	68
努力	70
ひとり	71
わが家	
信仰	73
しあわせ	76
おいっこたち	78
選挙	82

S サイズ	85
兄	87

障害のこと

「橋のない川」より	89
お金で買えないもの	90
心臓移植	92
同情と理解	93
町に行って	98
親切	100
コンプレックス	101
ムード	103
テープレコーダー	105
障害者手帳	108

真実	109
むなしい涙	111
私が死んだら	114
くらしの中から	
アリガトウ	116
贈り物	118
電話	120
態度	123
ずうずうしさ	124
四季に思う	
ひなまつり	126
春	128

夏.....129

雨.....130

秋.....131

雪国.....133

花に寄せて

...

りんごの花.....136

みずばしょう.....139

山ゆりと母.....140

造花と生花.....141

夢

魔法使いが現われたら.....143

夢.....148

働くこと	149
海	151
イツカキツト	153
経験主義	154
ただぼんやりと	158
オモイツキリ	160
思いつきりぶたれてみたい	161
やりたいこと	163
お酒	165
もし健康だったら	166
イライラ解消法	168
男のかた	
酔っぱらい	171

長髪.....173

スマートさ.....175

強いもの.....176

山の宿

ひとり旅より.....178

ランプ.....179

山.....181

すなおな心.....187

人生とは

ロマンティスト.....189

思い出.....190

なぜ？.....191

心	193
理性	196
生きがい	197

旅

京都旅日記	200
・白鳥に乗って	
花のみやこ	
楽しさいっぱい	
青空の京都	
東京にて	
西陣の消印	
楽しい旅を終えて	217
ひと月のちに	221
オアシとアシ	223
貯蓄	226
おわりに	
あなたには	230